

東洋大学校友会
新潟県支部会報
第30号

平成26年7月26日発行

甬水

発行
東洋大学校友会新潟県支部

発行者 植木 宏
発行所 〒943-0823

上越市高土町2-6-16
TEL 025-523-5847

第90回 箱根駅伝総合優勝

力走する新潟県出身 服部兄弟



2区 勇馬選手



7区 弾馬選手(区間賞)

(写真撮影：安藤 繁晴 氏)



●●● 巻頭言 あいさつ ●●●

支部長 植木 宏
S31年文学部史学科卒

新潟県支部会員の皆様には、ご健勝にてお過ごしのことと拝察申し上げます。平成26年度支部会報「甬水」第30号をお届けいたします。玉稿をお寄せくださった各位と編集委員の労苦に心から感謝を申し上げます。特に今年は甬水創刊以来30号という節目の年を迎えました。振り返れば、昭和60年8月、当時の第4代小鷹健一支部長のときでした。創刊にあたって小鷹さんは次のように述べておられます。

「…学祖井上円了先生の生誕地、新潟県支部として母校を懐かしむ校友・旧友との親睦を温める窓口としての『甬水』の刊行を計画…これからは会員が気軽に会合・消息・随想等々投稿できる支部の機関紙としての役割を果たせれば…」(甬水創刊号巻頭言より抜粋)。この精神は30年後の今も継承されており、30冊の会報には、同時代に生きた仲間達の生吹がギッシリと詰まっています。会員あつての「甬水」です。今後も時代のうつろいの中で、会員に開かれた窓として続けたいと願っております。

一昨年創立125周年を祝った母校大学の発展とともに、スポーツ関係の活躍はめざましく、特に箱根駅伝での2年ぶり4回目の総合優勝・復路新記録という素晴らしい走りで、私達に元気を与えてくれました。これは日頃の鍛練と精進に加えて、仲間意識の勝利だったと考えます。

今年は、校友会創立120周年を迎える節目の年になります。大いに盛り上げていただき、時代を見据えながら仲間意識醸成の再出発になればと願っています。

昨年の県支部の主な活動としては、支部総会、レディース会、山古志合宿支援活動、城西支部・甬水会新潟県支部との交流、地区別集会などでした。支部総会では、飯塚勝重先生(校友会本部監事)から「長岡藩と米百俵の精神-井上円了先生の精神的風土-」と題された貴重な講演を聞き、総会に花を添えていただきました。10月のレディースクラブ「女性の集い」では、本部から女性連絡協議会会長の南方真理さんを迎えて、9人参加の楽しい会になったとの報告をいただきました。参加人数は過去最高であり、今後とも女性校友活動の輪を広げたいと思います。山古志支援活動では、165名の会員から暖かいご協力をいただきました。この熱い想いは選手達の心に通じております。ありがとうございました。

今年も良き伝統は守り、さらに現実と向き合って頑張ります。会員各位の更なる仲間意識の高揚をお願いして、ご挨拶とさせていただきます。

平成26年度 東洋大学校友会新潟県支部総会次第

I 日時 平成26年7月26日(土) 9時30分～14時15分
 II 会場 チサンホテル&コンファレンスセンター新潟
 III 日程 受付(総会会場前) 9:30～9:55
 支部総会 10:00～11:00

司会・進行 進 藤 幸 生
 村 川 健 二

1. 開 会
2. 物故者への黙禱
3. 校歌斉唱
4. 支部長挨拶
5. 校友会本部挨拶 東洋大学校友会会長 植 木 宏 様
6. 祝 辞 東洋大学浦水会新潟県支部副支部長 羽 島 知 之 様
7. 祝 辞 東洋大学校友会城西支部長 飯 吉 伸 一 様
8. 議長選出
9. 議 事
 - ①平成25年度会務報告 米 山 康 久
 - ②平成25年度会計報告 小 島 正 弘
 - ③平成25年度監査報告 中 川 一 成
 - ④平成26年度事業計画案 米 山 康 久
 - ⑤平成26年度予算案 小 島 正 弘
 - ⑥その他
10. 閉 会

IV 特別企画 校友会活性化に向けたワークショップ 11:00～12:00 齋 藤 淳

V 記念写真 12:00～12:10

VI 懇親会 12:15～14:15
 司会・進行 小 林 広 明

- ①開宴のことば
- ②乾 杯
- ③宴 会
- ④校歌斉唱
- ⑤万歳三唱
- ⑥閉宴のことば

平成26年度 東洋大学校友会新潟県支部役員名簿

顧問	安藤 良顕	長岡市四郎丸1-10-15	0258-32-4324	レディースクラブ 部 長	内田美磋子	長岡市蓮湯3-6-9	0258-28-1760
支部長 (代議員)	植木 宏	上越市高土町2-6-16	025-523-5847	レディースクラブ 副部長(代議員)	平田 知子	上越市大字高森555-1	025-523-4488 025-520-2654
副支部長 (代議員)	村川 健二	新潟市西蒲区旗屋496	0256-88-5508	レディースクラブ 事務局 長	高崎 弘子	長岡市本町3-4-4	0258-35-3346
副支部長 (代議員)	木村 国夫	長岡市渡里町3-11	0258-32-7868	山古志合宿激励会 実行委員 長	支 部 長 兼 務		
副支部長	小島 正弘	上越市昭和町2-19-30	025-525-3825	下 越 地 区 事 務 局 長	齋藤 淳	五泉市三本木3-1-16	0250-43-1289
事務局 長	米山 康久	上越市新光町2-7-20	025-524-3318	中 越 地 区 事 務 局 長	高坂 寛二	長岡市信濃2-10-35	0258-35-5878
会計部 長 (代議員)	石田 秀男	上越市東雲町2-8-16	025-543-7224	上 越 地 区 事 務 局 長	山崎 次男	上越市大字今池498	025-525-4086
会計監査	中川 一成	糸魚川市中央2-13-34	025-552-2048	上 越 地 区 事 務 局 幹 事	増田 宏	上越市東本町3-6-43	025-524-3276
会報部 長	吉田 実	上越市新光町2-3-33	025-525-7458				
会報部 事務局 長	本間 直彦	新潟市中央区上所上 1-12-6	025-283-3919				
会報係		各地区事務局 長 兼 務					

平成25年度 第82回総会 中越にて開催

平成25年 8月25日 長岡グランドホテル



高坂氏の司会にて開会



植木支部長挨拶



川上三郎校友会本部挨拶



飯吉城西支部長祝辞



田淵常務理事の講演

支部総会会務報告

1. 開会のことば
2. 物故者への黙祷
3. 支部長挨拶
4. 校友会本部挨拶
5. 祝 辞
6. 祝 辞
7. 講 演
8. 議長選出
9. 議 事
 - ①平成24年度会務報告
 - ②平成24年度会計報告
 - ③平成24年度監査報告
 - ④平成25年度事業計画案
 - ⑤平成25年度予算案
 - ⑥平成24年度レディース会務報告
 - ⑦平成25年度レディース会事業計画案
 - ⑧平成25年度山古志合宿激励の報告
 - ⑨その他
10. 閉会のことば
 - 記念写真 11時20分～11時35分
 - 講演「長岡藩と米百俵の精神」 飯塚勝重 様
11時40分～12時25分
 - 懇親会 12時30分～14時30分
新潟県支部校友会員の皆様、本当にありがとうございました。

川上三郎 様
飯吉伸一 様
市島清貴 様
田淵順一 様



村川副支部長の議長で議事開始



講演をする飯塚勝重氏



小島副支部長の懇親会開演の挨拶



安藤顧問の乾杯で懇親会開始



和やかな雰囲気での懇親会



高崎弘子氏の音頭で校歌斉唱



締めで無事終了しました
恒例の内田氏による一本た

平成25年度 東洋大学校友会新潟県支部収支計算書

(自:平成25年4月1日~至:平成26年3月31日)

Table with columns: 科目, 予算額, 決算額, 増減, 摘要. Includes sub-sections for 収入の部 and 支出の部.

Table with columns: 科目, 予算額, 決算額, 増減, 摘要. Continuation of the financial statement.

Table showing 次期繰越収支差額の内訳 with columns for 現金, 普通預金, 定期預金, 計.

上記のとおりご報告いたします。

平成26年4月3日

支部長 植木 宗

会計担当 石田 秀男

上記決算報告について監査した結果、適正であると認めます。

平成26年4月3日

監査 中川 一成

監査 日

平成25年度 会務報告

平成25年

- 4月29日 県支部第1回役員会
・平成24年度支部会計、収支決算書、会計監査報告について
・平成25年度事業計画案、予算案について
・支部総会について
・支部活性化促進の助成について
・「山古志合宿」激励計画について など
5月18日 東洋大学校友会代議員会、親睦会
6月2日 東京城西支部総会、親睦会に出席
6月9日 県支部第2回役員会
・代議員会報告
・支部総会の細部決定
・会報「甬水」第29号の細部決定
・「山古志合宿」激励の細部決定 など
7月20日 全国支部長、実務者会議
7月21日 甬水会新潟県支部総会に出席
8月24日 「山古志合宿」激励訪問
8月25日 県支部総会(長岡市)・別記
会報「甬水」第29号発行
9月1日 県支部第3回役員会
・会報「甬水」の総会欠席者あて発送作業
10月5日 米百俵まつり(円了役)
10月20日 県レディースクラブ「女性の集い」集会
支部交流事業「安吾の足跡を訪ねて」
第9回 回大学対抗ゴルフ大会
10月26日~27日 長野県支部創立80周年式典に出席
10月27日 校友会恒例のパザーに協力
10月28日 全国ブロック長会議(本部)
11月30日 東京城西支部の招きで交流会に参加
12月1日 県支部第4回役員会、忘年会
・平成25年の事業の総括と反省

平成26年

2月17日 新潟 安吾忌

- その他
・上越:校友会総会・懇親会
・各地区別会議など実施

平成26年度 東洋大学校友会新潟県支部収支予算書(案)

(自:平成26年4月1日~至:平成27年3月31日)

Table with columns: 科目, 平成26年度予算案(イ), 平成25年度予算額(ロ), 平成25年度決算額(ハ), 増減(イ-ロ), 摘要. Includes sub-sections for 収入の部 and 支出の部.

Table with columns: 科目, 平成26年度予算案(イ), 平成25年度予算額(ロ), 平成25年度決算額(ハ), 増減(イ-ロ), 摘要. Continuation of the budget statement.

平成26年度 事業計画案

(平成26年4月1日~平成27年3月31日)

平成26年

- 4月19日(土) 会報「甬水」編集会議
4月29日(火・祝) 県支部第1回役員会
5月24日(土)~25日(日) 代議員会(新潟県定数5人)
5月25日(日) 第2回全国女性の集い(白山キャンパス)
6月8日(日) 県支部第2回役員会
6月29日(日) 上越校友会総会、懇親会
7月26日(土) 新潟県支部総会(新潟市)
会報「甬水」第30号発行(年1回)
8月3日(日) 県支部第3回役員会
・「甬水」発送、上越担当
8月未定 「山古志合宿」激励会
9月6日(土) 全国支部長会議(本部)
9月7日(日) 校友会創立120周年記念式典・祝賀会
9月21日(日) レディースクラブ交流会(長岡市)
第10回大学対抗ゴルフ大会
校友会パザーに協賛
10月4日(土) 米百俵まつり(円了役)
11月30日(日) 県支部第4回役員会、忘年会

平成27年

2月17日(火) 新潟 安吾忌

- その他
・各地区別会議など

❖❖❖ 上越校友会総会報告 ❖❖❖

S53年工学部応用化学科卒 吉田 実

平成26年 6月29日(日)の午前11時から上越・高田の高陽荘で23名の校友が出席して上越校友会の総会が開催されました。総会は植木会長の挨拶に始まり平成25年度の経過報告や会計報告、山古志合宿募金収支報告が行われました。質疑では上越地域にお住まいの400名の校友にもっと加入していただく工夫が必要との意見がありました。これに対して「糸魚川地区では今年の雨水を未加入の校友に配り宣伝したい。」という前向きなご発言をいただきました。

その後「東洋大学箱根駅伝優勝を応援する会」の安藤繁晴会長から、今年の第90回箱根駅伝での応援のエピソードや優勝の勝因などについて講演いただきました。現地での応援は電車を使って何箇所かの地点で声援を送りテレビ観戦では味わえない雰囲気と感動があるとのことでした。

12時半から懇親会に移り今回初参加の岩船(いわふね)尚貴さん(H16年法律学科卒)の紹介があり

ました。岩船さんは東洋大学の硬式野球部で4年間活躍され、現在上越市立春日中学校で教鞭をとりながら野球部の指導をされています。「校友の皆様から東洋大学野球部への応援よろしく申し上げます。」とのことでした。最後に昨年講演いただいた上越タイムス記者の坂手成雄さん(H7年応用社会学科卒)の万歳で閉会となりました。



レディースクラブだより

平成25年度レディースクラブ 「女性の集い」が開催されました

S52年法学部経営法学科卒 高崎 弘子

平成25年10月20日(日)に長岡和島地区でレディースクラブ「女性の集い」を行いました。

地産地消を推奨している新潟の地で、女性に大人気のレストランの朝採り野菜を添えた前菜、魚、肉、焼きたてパン、デザート、飲み物のランチを3ヶ月前から予約をし、美味しい食事をしたことや校友会会員に口添えをしていただいたガンジー牛の牛舎の見学、そして美味しいガンジー牛乳をいただき、また、道の駅でのガンジーソフトクリームなど地域の食材を食することに重きをおく企画をしました。

今回は、「女性の集い」としては、6回目となりましたが、初めて東京から協議会会長の南方さんをお迎えし、例年ほとんどがレディースクラブの役員のみ参加でしたが、新しく2名の会員の方に参加をしていただきました。当日はあいにくの雨模様でしたが、皆さんがとてもよかった、楽しかった、美味しかったと言ってくださいました。今年は、もっと幅広く、今回の参加者がそれぞれもう1人に声かけをすれば、たくさんのレディース会員の方々と楽しく過ごせる気がした1日でした。



平成26年度レディースクラブ 「女性の集い」へのご案内

本年度のレディースクラブ「女性の集い」を下記日程にて行います。「女性の集い」と銘打っていますが、本年も昨年同様、男女問わず県内の校友の多数の参加をお待ちしております。

- 日時 … 平成26年9月21日(日)
- 場所 … 中越地域(朝日山酒造等)
- 募集 … 27人
- 会費 … 4,000円



上越だより

植木支部長が実行委員長を務めた 高田開府400年記念事業

～江戸絵巻が時を超えて蘇る

S55年工学部土木科・修士卒 秀澤 光夫

慶長19（1614）年、大坂冬の陣を前に、越後1国と北信4郡を治める中心として高田城が築かれ、徳川家康の6男、松平忠輝公が入城しました。築城は伊達政宗が総指揮をとり13大名が関わる天下普請で行われました。高田城は天守閣を置かず土塁と堀に囲まれた平城でしたが、本丸、二の丸、三の丸など全体では70ヘクタールを超える巨大な城でした。また、本丸御殿はその規模や格式において二条城や名古屋城の本丸御殿と同格のものでありました。

時は流れ、今年の7月5日、高田城ができてちょうど400年の節目を迎えました。上越市では400年の節目を市民と共に祝い、当地域の歴史と文化・伝統を学び、そしてそれを次の世代に伝えていく、「祝う、学ぶ、伝える」をコンセプトに、7月4、5、6日の3日間にわたり記念事業を行いました。記念事業の計画および実施に当たっては、平成24年12月に「高田開府400年祭実行委員会」を設置し、当校友会県支部長でもある植木宏先生から会長をお務めいただきました。

4日の夜は前夜祭として松平定知氏から高田城を巡る徳川家、松平家の人々についてご講演をいただきました。5日は400年の節目を祝う記念式典、そして次世代を担う中学生を中心とした記念フォーラム、また城下町高田わくわく楽市や夏に雪の広場、記念花火大会で市民の皆さんから大いに楽しんでいただきました。6日には高田城本丸土塁の探検ウォー



▲五郎八姫のお輿入れ行列

クと本城御門の発掘調査説明会を行い、現地で高田城の在りし日の姿を感じながら歴史に触れてもらいました。そして最後は、松平忠輝公に嫁いだ伊達政宗の娘、五郎八姫のお輿入れ行列を行い、所作指導を受けた行列の時代絵巻をご覧いただきました。この3日間で5万人を超える市民や観光客の皆さんからご来場いただきました。

400年という節目は終わりではなく、新たな次の100年へのスタートです。市民一人ひとりがこの機会に改めて自分のふるさとを振り返り、地域の歴史や豊かな文化を子どもたちに伝え、更なる未来へ向かって次のまちづくりを考えていく節目だと思っています。

当市ではこのあとも上越まつり、蓮まつり、謙信公祭など多彩な観光イベントが続きますので、市外にお住まいの皆様も、ぜひ上越市を訪れ、その魅力に触れていただければと願っています。



▲前列左から3番目植木支部長



▶高田公園にて



◀久しぶりの高田での花火

中越だより

箱根駅伝祝勝会を企画して

副支部長 木村 国夫
S45年経済学部経済学科卒

平成25年8月25日の長岡を会場とした第82回東洋大学校友会県支部総会を無事終了し、せっかく集まり3年後の長岡総会まで間がありすぎると感じたことから集まってワイワイ騒ぐ事でもしないかと、メンバーで考え、1月2・3日箱根駅伝がある事から、祝勝会、又は応援会（優勝しなかった時の会）を26年3月に行う事を決めました。

案内の対象先は、山古志合宿寄付者及び総会出席、欠席回答者、他判明している中越地域の校友会員83

名に往復ハガキを使い、26年2月に「箱根駅伝祝勝会のご案内」を郵送しました。

3月15日（土）長岡上田町、「彦」を会場としました。出席者23名（当日都合悪く2名欠席）郵便回収率71%と高率でした。

高低差のある大声で大学校歌斉唱と33年卒業生佐野先輩の乾杯の音頭で会は始まり、今年の駅伝、箱根ミュージアム、ボクシング、水泳、野球、試験、哲学堂、図書館、学生運動、今の自分の仕事と話はずきませんでした。楽しいから毎年やらないかとの声が出たところで、33年卒業生内田女史の一本締で会は終了しました。校友会は人縁の宝庫です。校友の皆様、又ご案内します。



▲中越地区箱根駅伝祝勝会に参加した方々

平成26年度事業計画

1. 長岡米百俵祭
 - ・10月4日（土）
 - ・井上円了博士の登場
2. 第2回箱根駅伝祝勝会
 - ・27年3月14日（土）
 - ・中越地域の校友会員にご案内します
 - ・会費4,000又は5,000円程度

井上円了博士になりました

副支部長 木村 国夫
S45年経済学部経済学科卒

長岡では、毎年10月の第1土曜日に「米百俵まつり」が行われております。

明治元年（1868年）1月、鳥羽伏見の戦いで戊辰戦争がはじまり、7月長岡城再陥落後、明治2年（1869年）本家長岡藩8,500人あまりの人々への見まいとし、分家三根山藩から送られた百俵の米を、小林虎三郎大参事は窮乏する人々に米を分配せず、売って国漢学校（現在坂之上小学校）建設のための資金とした。

「食う事ばかりを考えていたのでは、長岡はいつになっても立ちなおらない、この百俵の米をもとにして学校を立てて子どもをしたてあげてゆきたいのだ。」と。

この祭は、米百俵の精神を受け継いだ長岡の先人の一人として井上円了が登場します。

平成14年（2002年）から今年は13回目に当ります。高崎猛支部長は平成14年から平成20年まで7回、安藤良頭支部長は平成21年から平成24年まで4

回、木村副支部長は平成25年から今年2回目、井上円了博士に扮します。写真うつりはどうですか、馬子にも衣装ですか。



▲安藤良頭顧問



▶故高崎元支部長



▲木村副支部長

参考文献 米百俵 小林虎三郎の思想 山本有三 昭和50年8月 長岡市

下越だより

下越地区で活躍する
校友を紹介します

第2回 ザ校友

皆木邦夫氏

S46年文学部卒
新発田市在住。3人の子供は、それぞれ独立。現在は、奥様と二人暮らし。二人で畑作を楽しんでいる。

歴史と伝統のある、新発田台輪を守る

一本日は有難うございます。早速ですが新発田台輪の説明をお願いします。

皆木氏 新発田台輪とは、毎年8月27日から29日までの3日間、諏訪神社の例大祭として行われる「城下町新発田まつり」で曳き出される「山車」ことです。320年前の4代藩主溝口重勝（しげかつ）の頃に原型が出来たとされています。27日早朝神事として諏訪大社に納められる「奉納台輪」、29日夕刻からは、木遣りと「あおり」も勇ましく各町内に帰る「帰り台輪」がまつりの華です。市内には三之町（皆木氏の町内）を含め6台の台輪があり、囃子方、曳き手総勢120人ほどで、運行します。新発田台輪には、二つの特徴があり、全国の「山車」は肅々と曳きますが、新発田台輪は「あおり」といわれる行為がはげしいです。これは台輪を上下に激しく揺さぶることをいまして、それぞれの、町の意気込みを示すものです。もう一つは「もみあい」といわれる、曳き手の若い衆のぶつかり合いがあり、「喧嘩台輪」という異名もあります。29日の夕方諏訪神社からそれぞれの町内に帰るわけですがその道中において曳き手同士が激しくぶつかる様は迫力十分です。要所要所であり、もみあつた後、町内の方々に迎えられて帰るわけですが、台輪を納めたあとの充実感、達成感が翌年の意欲つながっています。それはそれは気分の良いものです。

一それは、勇壮ですね。しかし、何故新発田台輪と関わり始めたのですか？

皆木氏 そうですね、定年後町内会のお手伝いとして、法被を着て、提灯持ちとして参加したのが始まりです。その後、町の責任者として台輪の二階に乗ることになり、現在に至っています。祭りは「見る」より「踊る」を実感しましたし、なにより台輪の二階から見る景色は「新発田まつりの華」であることを再確認させてくれました。運行責任者の「頭取」の指揮下曳き手とお囃子が一体となり、各町内の意気と意地がぶつかります。提灯がゆれます。もみ合いに歓声が上がります。それを台輪に乗って体感する。まさか、私にこんな時間が来ようとは思っていませんでした。一層強く台輪に関わろうと感じたのかもしれません。

一だんだん、深みにはまっていくようですね(笑)。でも悩みや苦労なども当然ありますよね。

皆木氏 今、少子高齢化の中、残念ながら曳き手と若い衆を町内住民だけで満たすことができません。それと新発田台輪の特徴である「あおり」行為は台輪を激しく傷めます。近年は、「一斉あおり」（6台が一斉にあおり）があり、「あおり」の回数増加により台輪の損傷が進んでいます。市からは、補助がありますが、不足分は町内でまかなうことになります。当町内も台輪の修理中ですが、「想像以上の痛み」という棟梁の言葉が響いています。



▲新発田台輪の「あおり」と「木遣り」

一どこの地域でも維持費や少子高齢化は悩みの種ですね。

皆木氏 はい。しかし、新発田台輪は、歴史が有り、伝統の

重みがあります。単に台輪の運行に留まるのでなく町内の様々な分野にそれが生きているということです。先の後継者不足ですが、台輪の運行を通じて相当程度解決されています。囃し方の稽古や諸準備の過程で「タテとヨコ」のかかわりが、阿吽のうちに伝わっていると感じています。この繰り返しの中から後継者が育ち、伝統が次世代に伝わっているわけです。「子ども台輪」で子どもたちが、台輪を曳き「木遣り」を歌い掛け声をかけている姿は、町内を愛する心と世代交代の準備となっています。また、町民からも祭礼の物心両面にわたる支援や台輪の見送り、出迎え等で一体感を感じています。土台を大切にしてきた先人の苦勞のお陰で町内行事がスムーズにいけますので、有りがたいと思っています。当町は、8年前に中が見えるように台輪の格納庫を新築し、観光客から眺めてもらっています。また江戸時代からの道や堀部安兵衛緑の寺もあり、ミニ観光ガイドを計画し町内の再発見とPRに一役を、と願っております。

苦学有れば、楽あり

一それでは、話題を変え、学生時代のお話を少しお願い出来ますでしょうか？

皆木氏 私の場合、「生きるために稼ぐ」必要がありました。竹馬の友の家に居候をしたり、卒業までの数ヶ月間は同級生の新婚宅でよく飲んだりしました。体育祭の時でしょうか、白山から川越まで、夜通し歩いた記憶もありますね。お金はなかったのですが結構学生生活を楽しんでいましたよ。当時は勤労学生を大事にするという雰囲気がありましたし、同級生は仲良く学生生活を送っていました。今でも時々同級会が開かれますし、4年前には粟島でその会を開きました。魚釣り他で楽しんでくれたようです。

一最後になりますが、これからの活動について、一言お願い出来ますでしょうか？

皆木氏 今、郷土史を研究する団体に所属しているので、昨年東京の研修旅行で新発田藩主の御墓をお参りしたり、泉岳寺では、特別に「有由有縁」の石碑（川端康成氏の揮毫）を拝見させてもらったり、地元の人との交流を通して、新しい発見に興味津々です。又校友会のご縁で「安吾忌」に初めて参加しましたが、十二分に満ち足りた気分になりました。ご講演もさることながら、寒い中での大安寺集落の人たちのおもてなし、サービスにふれる、ことができました。それぞれの暮らしがあるわけですが、三之町で取り組んでいる「なじだね、町人町散歩」にも、こんな形で無理なく輪が広がれば、と思っているところです。



▲同級生と共に粟島での皆木氏 (左から2人目)

取材の感想

皆木氏の歴史と伝統の重みを後世に繋げようという意気込みと、人と人との関係を大切に、暖かい人柄を強く感じました。

取材：S50年文学部英米文学科卒 本間 直彦